



大学プロフィール

所在地
愛知県春日井市松本町1200

特色

1938年創立。名古屋市内から15Kmの丘陵地に広大なキャンパスを持つ。前身は中部工業大学で、1984年に経営情報学部と国際関係学部を新設するとともに中部大学に名称を変更した。短期大学も併設されている。

学生数

約6千名。およそ6割が工学部の学生


ネットワーク環境

SINETの名古屋大学ノードに128Kbpsで接続、キャンパス内はFDDI網をバックボーンとして多数のサブネットが接続されている。

インターネットのあるキャンパス訪問

中部大学 語学センター


今月からシリーズでレポートするこのコーナーでは、インターネットについての研究、あるいはインターネットを利用したユニークな研究を行っている日本全国の大学を訪問し、担当者にお話をうかがいます。第1回目の今回は、学生の語学教育にインターネットを積極的に導入している中部大学・語学センターの尾関修治助教授を訪ねてみました。

 キャンパス内のネットワーク環境がどうなっているか教えてください

新しい語学メディア教室に41台、語学メディアラボに20台のMacintoshを導入したばかりです。学内全体のネットワークについては把握しきれませんが、一般の学生がいつでも使えるネットワーク端末というと学術情報処理センターの200台くらいでしょうか。それ以外にもゼミ室や卒研室などで利用できる場所もかなりあるようです。

ネットワーク教育のために1年生を対象とした「情報処理入門」という選択科目があって、その受講率は8割以上になると聞いています。それでもまだ十分利用されていないようなので、もっと活用してほしいと思っています。講習会を開いてパスワードを配っても終わった後でそれが机の上に忘れられていたりするんですよ(笑)。これだけの設備のあるところは、

他にはあまりないと自負していますし、私が学生だったらずっとここにこもって帰らないでしょうね。

 とても恵まれた設備ですが、中部大学の語学教育の特徴は何ですか？

中部大学の語学教育はメニューが豊富で、TOEIC対策や留学準備などの実用英語にも重点が置かれているところです。この語学センターは学部と独立した予算で運営しています。私は国立大学にいた経験もあるのですが、そのときに比べると必要なものには十分な予算をつけてくれるという点で今は非常に恵まれていると感じています。それで場所と機材にも思い切った投資ができますし、カリキュラムにしばられず自由に教材を揃えられるので、学生の評判は上々です。ここではCD-ROMも使えますし、電子メールも使えます。また、語学センターがネットワーク技術専門のスタッフを置いているのも



中部大学の国際関係学部の尾関修治助教授と語学センターの大場毅氏(語学メディア教室にて)



珍しいのではないのでしょうか。

また、大学という「お山の大将」的ななわばり意識のようなものがあつたりしますが、この英語教員の間では横のつながりが強くて、活発なメーリングリストも学科内にあります。

● 語学教育でインターネットに着目された理由は？

ハイパーカードで教材を作り始めたのが語学教育にコンピュータを利用し始めたきっかけです。やがて研究者間でメーリングリストを作るようになりました。2年前くらいに「モザイクというものがあるらしい」という話から始まったのですが、実際にインターネットを使い始めた瞬間に、これは教育に使えると気づきました。英語教育で困難だった「“ごっこ”ではない生身のコミュニケーションの相手がいる授業」が実現できるわけですから、一種の革命といってもいいでしょう。学習者が主体的に語学を学んでいけるという点とインタラクティブ性は、ハイパーカードとインターネットに共通しています。よりよいコミュニケーションツールがあれば、そこに行き着くしかないので、もう後戻りはできません。

語学センターでは、最初にネットニュースを英語教育になんとか利用できないかということでインターネットの利用が始まりました。その後ワークステーションが入り、94年の春にはWWWの実験をしていました。学生に英語で電子メールを書かせるようになったのもその頃です。

学内のニュースグループを利用して英文メールの添削を行っています。参加しているすべての学生が参考にでき、実際に担当ではない教師からもコメントをもらったりします。非常勤の講師も自宅から電話回線で添削をしたりしています。これを発

展させると、学外から英語の堪能な人材をオンライン教師に組織するようなこともできてしまいます。

● 語学教育にインターネットを今後どのように活用されていくのですか

今、「インターネットを利用した語学教育 - 教育環境の開発、実践と検証 - 」という研究テーマで文部省に研究の助成を申請しているところです。昨年度はその準備作業に予算が下りて同じ問題に取り組む研究者を組織化することができました。研究グループの構成メンバーには英語教育だけでなく、異文化コミュニケーション、日本語教育、そして情報処理の専門家もいて、授業計画づくりとソフトウェア開発を分担しています。

計画ではまず、全国からボランティアの学生を集めて仮想教室を作り、そこで教材づくり、カリキュラムに沿った授業、成績の評価、自習用ソフトウェアの開発などを行います。授業はメールとWWWで行うので、日本のどこでも講義が受けられることになりそうです。そうすると、授業料はどこに納めるのか、どの大学が単位を出すのかといった問題も考えておかなければならないでしょう。従来のコンピュータを利用した教育というと、古い枠組みの中で取り入れるというものでしかなかったんです。当然、今度の研究では大学制度そのものの再検討にまでつながるでしょう。



WWWは教材にもなりますし、学生の発表の場にもなります。補助教材はリンクで飛んだ先にあつたりするわけです。データベースの構築も簡単になるので、学習者が自己表現するときに便利な表現などを集めて役立てることも可能です。

● インターネットを利用した教育にとって何が今、問題だとお考えですか

何といっても設備とお金の問題ですね。語学教育も大学から小学校まで地続きのものです。その意味で100校プロジェクトというのはとても意義のある実験だと思います。でもなぜ100校なのか疑問です。喜び勇んで応募したにもかかわらず候補からはずれたところはかなりあります。私の知っている例では、自宅にワークステーションを購入して生徒にダイアルアップさせている先生もいます。現場にいくら熱心な先生がいても、受験に役に立たないものは後回しにされますし、教室に電話回線を引くことは許されていないんです。また、そうした生徒を教える教員を養成するはずの教員養成系大学ではコンピュータやインターネットが自由に使えるほど恵まれているところは少ないのが現状です。教員の再教育が必要になるでしょうね。

中部大学のように設備の整った大学もそれに知らん顔してはいけませんし、「助ける」というと僥越ですが、共同で研究をしていこうということで、実際にもその努力をしています。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp